



シンポジウム

観光客が訪れる場をこえた ミュージアムの役割

「訪れる」だけじゃない！
ミュージアムと観光の相互作用の可能性

ミュージアムは観光客が訪れる場にとどまらず、
地域全体の観光整備および地域ブランディングを支える役割も果たしている。
本シンポジウムでは、観光施設整備において
歴史的な情報や地域農産品のブランド化に関する学術的な情報を提供する
小樽市総合博物館と七飯町歴史館の事例をご報告いただく。
加えて、大和ミュージアムのような、特定テーマを取り扱うミュージアムが
地域観光および地域発展にどのように寄与するかについてご紹介いただき、
ミュージアムが目指すべき文化観光の行方についてディスカッションしていく。

日時／2023年9月24日(日)13:00～17:00

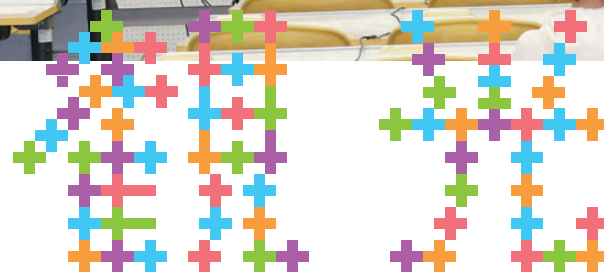
会場／北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W203室
※Zoomを用いたオンライン配信を併用

パネリスト／ 石川直章(小樽市総合博物館 館長)
山田央(七飯町歴史館 学芸員)
花岡拓郎(大和ミュージアム 学芸員)

コメンテーター／石黒侑介(北海道大学国際広報メディア・観光学院 准教授)

司会・コーディネーター／卓彦伶(北海道大学文学研究院 特任准教授)

参加者のべ72名(オンライン配信、事後配信視聴者を含む)



シンポジウム

「観光客が訪れる場をこえたミュージアムの役割」開催報告

文化観光にとらわれず、地域のニーズに応じていく。

卓 彦伶(北海道大学文学研究院 特任准教授)

近年、ミュージアムの文化観光に対する役割が一層期待されるようになった。本シンポジウムでは、ミュージアムが観光に関して、①具体的にどのように関与しているのか、②ミュージアムのどんな機能がさらに観光への支援を可能にし、それによってどのような効果が生じるのか、この2つのことについて、観光客が訪れる場を提供することに力点が置かれていないミュージアムの役割・機能を検討することを目的とする。シンポジウムの前半は、3名のパネリストによる報告、後半はコメンテーターを務める本学国際広報メディア・観光学院石黒侑介准教授とのディスカッションが行われた。



まず、小樽市総合博物館館長・石川直章氏による報告「地域博物館と「文化観光」何ができるのか？何をすべきか？」では、小樽市は1980年代以降の運河整備完成や石原裕次郎記念館の開館などの効果で観光客の数が増加し、国内有数の観光都市となったが、1956年に開館した小樽市総合博物館もこれらの効果を受けて一躍観光都市の中心地に位置するミュージアムになり、小樽市の観光を支援するために行ってきた取組みや直面している課題について報告された。事例として、最近、小樽市内のお土産品開発に対する情報提供や小樽の歴史をテーマにしたコラムの執筆を通じて、小樽観光の魅力向上をサポートしている活動を挙げた。石川氏は、地域の博物館は地域のためにあり、地域の観光を含めた産業に対して調査研究の成果をもとに情報提供をしていく下支えする役割を果たしていくと話した。

続いて、七飯町歴史館・山田央氏の報告では、七飯町歴史館の活動は観光を目的としていないが、地域農産物の男爵いものブランディング化や西洋りんご発祥の地として商標登録する際に、栽培に関する歴史資料の提供や、町内の生産者への聞き取り調査を行った。また、2013年に閉館した男爵資料館の資料をどうするかという相談を

受け、資料を残す取り組みとして、一部の資料を道の駅にある男爵ラウンジに展示されることになり、文献資料は七飯町歴史館が引き受けることになった。また、大沼公園の案内ボランティア研修やパンフレットの校正などの依頼も普段の業務の中で行っていると話した。山田氏はミュージアムの役割について、「あたりまえのことをあたりまえに日々こなしている」として、ミュージアムの機能を通して地域全体を支えていくと話した。

最後に、大和ミュージアム・花岡拓郎氏は大和ミュージアムのような特定テーマを取り扱うミュージアムが地域観光および地域発展にどのように寄与するかについて紹介した。大和ミュージアムは設置目的として観光の拠点と位置づけられている。この点では小樽市総合博物館や七飯町歴史館とは大きく異なる。文化観光において、歴史・文化を求める観光客を見据えながらも、ふらっと立ち寄っただけの観光客、映画の聖地巡礼の観光客にも対応していくことを心掛けていると話した。

後半のディスカッションでは、観光分野の専門家である北海道大学国際広報メディア・観光学院の石黒侑介准教授は観光政策から旅行者の行動について、①明確な目的地があって、そこを目指していく、②メインの目的地ではないが、行ったからには寄りたい、③事前に情報を調べていないが、行ってみたら意外に良かったという3パターンを大和ミュージアム、小樽市総合博物館、七飯町歴史館の3館に当てはめてコメントした上で、それぞれの文化観光に対する思いや感じる可能性について議論した。

